学期レポート

2009.7.24　第 4 期生 福永　梢

月	火	水	木	金
7:00 Eng101A 8:35		7:00 Eng101A 8:35		
	8:30 ASL103A 11:20		8:30 ASL103A 11:20	8:30 Deaf Culture 11:50
	11:35 Deaf Education 13:10		11:35 Deaf Education 13:10	
11:45 PSY101 12:45		11:45 PSY101 12:45		11:45 PSY101 12:45
				13:00 ASL tutor 14:00
13:30 Reading 189B 15:10		13:30 Reading 189B 15:10		

— 単位あり —

- ASL103A　Principles of American Sign LanguageⅢ：5 単位
- ASL140　Deaf Education：3 単位
- DEAF189B　Intensive University Preparation－Academic ReadingⅡ：3 単位
- ENGL101A　Reading and Written Composition：4 単位
- PSY101　General Psychology：3 単位

— 単位なし(聴講) —

- ASL142　Deaf Culture

—個別学習—

- ASL tutor

学期レポート

2009.7.24　第 4 期生 福永　梢

１．ASL103A (Principles of American Sign LanguageⅢ)

前学期に引き続いて、ASL 力を伸ばすために受けた。先生は厳しくて宿題が多いということで有名で、実際その通りであったが、受けてよかったと思えるクラスだった。それだけ自分の ASL 力を伸ばすことができたからだ。週 1 で抜き打ちの小テスト、単元ごとにテスト、自習にもテスト、とテストだらけだった。単元ごとに行われる ASL 発表はビデオに撮られ、自分の ASL の表現力、語彙力、速さなどを自己分析してレポートを行った。ろうに関するイベントに４つ以上参加して、自分の感想だけではなく、ASL をどれだけ理解できていたか、どれだけろう者と交流できたかについても報告した。授業外時間では、週１～２回 ASL ラボに行って授業とは別の語彙や表現法について課題が与えられた。このほか、３ヶ月に１回自演の DVD 作成、ろう文化に関する本から重要だと思う 20 ヵ所を章ごとに引用して、その説明と重要だと思う理由を書くというレポートもあった。その中で特に、英語の文章を ASL に訳する作業はとても新鮮で、ただ ASL にも英語にも語彙力がない私にとって大変難しかった。しかし、英文をイメージ化・概念化させて視覚的言語に変換するのはこのレベルのクラスで初めて行うものなので、「英語に頼らず、視覚的に頼った ASL 表現を鍛える」ことを目標としている自分にとってはとてもいい訓練になった。指文字の読み取り、ASL の語彙に関しても大きくスキルアップできたクラスであった。

２．ASL140 (Deaf Education)

アメリカのろう教育、それに対する多角的な見方を学ぶためにこのクラスを受けた。自分の経験以外に基づく見方をもつことの大切さを先生は常に訴えており、クラスの進め方もそれがうまくできるように作られていた。まず、ろう学生が親への手紙と題して、自分の経験からろう教育のいい面または悪い面について発表した。聴こえる学生からはろうの子どもが生まれた親友への手紙の発表があった。それからろう教育の現実と課題、さまざまな教育方法とその理論、歴史、重複障害や民族文化へと知識を整理していきながら、議論を交わした。その間、「ろう学校と通常学校のどちらかを残すとしたらどちらにするか」、「バイリンガル教育を取り入れようとしないろう学校校長を説得してみよ」などを課題としたレポートがあり、感情的ではなく論理的に訴えることの大切さを先生が伝えようとしているのがわかった。最後には、聴こえる学生からろう教育の改善点とその方法を提供するという発表が行われた。このクラスを通して、生徒全体のろう教育に対する考え方が変わっていく様子が見え、とても興味深かった。例えば、初めはある１つの方法がいいと主張していた学生が、クラスで多角的な見方を得て、クラスの最後のほうではさまざまな背景・立場のろう・難聴者がいることを考慮した考え方に変わっていた。視野を広げること、論理的に考えること、現実を捉えることの大切さを教えるのは私の課題でもあるので、授業本来の目的である知識の獲得だけでなく、先生のこうした単元構成、指導方法、考え方の提供なども大変参考になった。

３．DEAF189B (Intensive University Preparation－Academic ReadingⅡ)

前学期では、クラススケジュールの都合でこの Reading クラスを受けることができなかった。おかげでメインストリーミングの英語クラスや GRE・TOEFL 試験で読解力のなさを度々痛感していたため、今学期受けることにしたクラスである。やはり個別の能力に合わせて丁寧に指導してくれるクラスは、基本的なことを学ぶにはとてもよい。私は文章をさらっと読んで内容を大まかに把握するのが苦手で、初めは細かいところが気にかかってしまったり読んだのに頭に残っていなかったりしていた。しかし、初めの１回だけ丁寧に読んだとしても意味を勘違いしていることも案外多いことに気付いたとき、全体の文脈や構成を把握するよう頭を切り替えることができた。このほか、言葉の裏を読んだりわからない単語の意味を憶測したりするなど、見えないものを読み取る力を鍛えることもできた。ただ、読解力が上がったとしてもそれを ASL や英語でうまく表現しうるだけの力が伴わないために歯がゆい思いをすることも多かった。

４．ENGL101A (Reading and Written Composition)

前学期の英語クラス 151B に引き続き、書く力をつけるために受けたクラスである。厳しい先生は ASL クラスで十分だと思っていたが、ここでもまた英語の先生の中では一番厳しいことで有名な先生に当たってしまった。初めは慣れなくて大幅に遅れたが、英文を書くことに慣れてくると少しずつ日本語の論文を書くときに出てくるようなアイディアを思いつくことができるようになってきて、少しずつ遅れを取り戻すことができた。やはり自然な英語、適切な単語という壁はとても大きい。この２つがあるかないかで、論文の構成やポイントがいくらよくても完成度に大きな違いが出てくる。逆に、１つの単語に収めようとして説明不足なってしまうこともあり、辞書では補い切れない言葉の操り方にはとても悩まされた。また、クラスではグループディスカッションも多く、英語も ASL も高度な知識や考え方を表現しうるだけの力が伴っていないために、他の生徒と十分に意見交換できず、授業を受けている意味さえわからなくなることもあった。しかし、ASL クラス同様に厳しい分、文法をさほど気にせずに英文を書けるようになったり必要な情報を注意深く抽出できるようになったりするなど、大きな成長も遂げることができた。

５．PSY101 (General Psychology)

大学院で学校心理を専攻する前に日本語から英語に訳して考える手間暇を省きたい、心理に関する基礎知識を改めてきちんと覚えたいと思い、このクラスを受けることにした。アメリカに来て初めての大人数クラスで 120 人もの生徒がいた。日本での大学生活の感覚が懐かく思い出され、今学期の中で一番楽しかったクラスであった。先生曰く「楽な」１回の授業で 10 ページ、のペースで進められたのだが、自分にとって予習がなかなか追い付かずあっぷあっぷ状態であった。そういう意味では、Reading クラスを同時に受けていてよかったと思う。クラスではもちろん多くの専門用語が出てきた。日本語だ

と聞いただけでわかるものでも英語だと全くピンと来ず、後ほどの例を聞いてやっと日本で得た知識とつなげることができた、というものばかりであった。確かに辞書を使って日本語から英語に訳して覚えることもできるが、大学院では翻訳にばかり時間を取られるわけにはいかないので、英語で一から勉強し直すことができたのはとてもよかった。また、心理を専門としていたわけではないため偏りのある知識を、整頓できたのもとてもよかった。本当はこの他に、ろう・難聴者向けカウンセリングの基礎を学ぶクラス「Counseling the Deaf」を受ける予定だったのだが、受講生不足で中止となって受けられなかった。そのときは残念に思ったが、その代わり基礎知識に集中できたので大学院での本格的な勉強に向けてよい準備ができたと思う。

6．ASL142 (Deaf Culture)

ろう者の考え方、そこにある心理的な動機、そしてそれらへの接し方などを知るためにろう文化のクラスを受けた。ASL クラスや心理学クラスでも思っていたことだが、相手にとって心地よい表現、言い回しは日本語だと比較的柔軟に選べるが、手話だと語彙の狭さもあってなかなかうまくいかない。日本語には「適切な言葉」の例文集があるが、手話だとあまり見かけない。失礼でない言い回し、行動を知るためには、その背景にあるろう文化を知る必要があると思う。このクラスには聴こえる人がほとんどでろう生徒が少なかったため、授業ではどちらかというと聴こえる人のよくある考え方がよく見えて興味深かった。これに対して、ろう者である先生がろう者としての考え方を提示するのだが、異なる見方をもっている者同士がどのようにしてどこまで理解し合えるのか、クラスそのものが 1 つの例のようで大変勉強になった。

7．ASL tutor

前学期に引き続いて、指文字の読み取りや ASL の表現力を鍛えるつもりで申し込んだ ASL チューターだったのだが、実際は ASL クラスの宿題や発表練習、DVD 作成、テスト勉強、テストの回答を日本語から英語に訳する作業など ASL クラスの補佐みたいなものになった。特に発表練習では、大いに助けられた。発表前では表現方法を相談し、発表後は一緒にモニター分析を行って反省点や改善点を指摘してもらって、次へとつなげた。発表前ではしっかりできたのに、当日緊張したり睡眠不足だったりしてうまくできなくて落ち込んだときには励ましてもらって、次はうまくやろうという支えにもなった。

学期レポート

2009.7.24　第 4 期生 福永　梢

次学期の目標

- 高度な知識、意見を ASL、英語で表現する力を鍛える。
- ASL、英語ともに語彙を増やす。
- 心理統計学、生理学、認知心理学などまだ不十分な知識を中心に基礎知識を固める。
- 読解力と自然な英語表現力を上げるため、英語の本を読んだり映画 DVD を見たりする。
- 日本語から訳すのではなく、概念やイメージから英語を書けるように、簡単な英文から英語の感覚をつける。